

新しい環境目標について

JR東日本では、環境への取り組みを着実に進めていくため、中長期的な目標だけでなく、環境保全活動の分類ごとに数値目標を定めて取り組みを推進しています。

これまでの2010年度達成目標の終了にともない、新たな目標を定め、持続的な活動を行っていきます。

環境保全活動の分類	2011年度までの目標	新目標(2012年度以降の目標)
地球温暖化防止への取り組み	鉄道事業のCO ₂ 総排出量 2017年度までに32%削減(1990年度比) 276万t-CO ₂ ⇒188万t-CO ₂ (88万t-CO ₂ 削減)	・[2020年度達成目標] 鉄道事業のエネルギー使用量8%削減(MJ 2010年度比) ・[2020年度達成目標] 自営電力のCO ₂ 排出係数30%改善(kg-CO ₂ /kWh 1990年度比)
	鉄道事業のCO ₂ 総排出量 2030年度までに50%削減(1990年度比) 276万t-CO ₂ ⇒138万t-CO ₂ (138万t-CO ₂ 削減)	—※1

環境保全活動の分類	項 目	2010年度目標	新目標(2013年度達成目標)
地球温暖化防止への取り組み	省エネルギー車両比率	86%	単位輸送量あたり列車運転用電力量 6.8%削減 (kWh/車キロ 2006年度比)
	列車運転用電力量	2%削減(2006年度比) 41.7億kWh⇒40.9億kWh	
	単位輸送量あたり列車運転用電力量	2%削減(2006年度比) 1.85kWh/車キロ⇒1.81kWh/車キロ	
	駅・オフィス等における省エネ	4.5%削減(2006年度比) 153億MJ⇒146億MJ	
資源循環への取り組み	駅・列車ゴミのリサイクル率	70%	90%
	総合車両センター等で発生する廃棄物のリサイクル率	95%	95%
	設備工事で発生する廃棄物のリサイクル率	92%	95%
	事務用紙の再生紙利用率	100%	グリーン購入実施率 100%
沿線での環境活動	東北・上越新幹線の騒音対策75dB以下(騒音対策対象地域について)	100%(2009年度達成目標)	[2015年度達成目標] 東北・上越新幹線の騒音対策75dB以下※2(騒音対策対象地域について) 100%
環境コミュニケーション	毎年具体的な環境保護活動	森づくりへの参加等	—
環境マネジメント	全グループ会社が具体的な数値目標を設定	全グループ会社が数値目標を設定	継続して目標設定

表内 はグループの目標。

※1 2030年度目標は、政府のエネルギー政策等の動向を見極めつつ対応します。

※2 国の指導により指定された地域の75dB対策については既に完了しています。現在、2015年度完了を目標に、それ以外の地域についても段階的に改良工事を進めています。

新目標設定にあたっての考え方

●[2020年度目標]鉄道事業のエネルギー使用量8%削減(MJ 2010年度比)

これまでも省エネルギー車両の導入等により、当社におけるエネルギー使用の効率化等を進めてきましたが、これまでのCO₂総排出量の目標は、購入している電力会社のCO₂排出係数の増減に大きく左右され、当社の努力が反映されづらい状況でした。そこで、当社のエネルギー使用の抑制努力が、より分かりやすく表れ、外部環境の変化に影響されない目標を設定することとしました。

●[2020年度目標]自営電力のCO₂排出係数を30%改善(kg-CO₂/kWh 1990年度比)

自営の火力発電所では、これまでも発電効率をあげるための「複合サイクル発電設備」への更新や燃料転換等を実施し、CO₂排出量を削減する取り組みを行ってきましたが、今回CO₂排出係数の目標を定めることで、さらなる取り組みを推進していくこととしました。

※なお、上記2つの目標は、これまで設定していた2017年度目標に代わる目標ですが、2030年度目標は、政府のエネルギー政策等の動向を見極めつつ対応します。

●[2013年度目標]単位輸送量あたり列車運転用電力量6.8%削減(kWh/車キロ 2006年度比)

これまでは、「単位輸送量あたり列車運転用電力量」に加えて「省エネルギー車両比率」と「列車運転用電力量」についても削減目標を設定していましたが、省エネルギー車両の導入が進み、消費電力量の総量が削減されることで単位あたり(車キロ)の消費電力量も削減されることから、今回の目標では「単位輸送量あたり列車運転用電力量」に統合しました。

●[2013年度目標]支社等における単位床面積あたりエネルギー使用量3%削減(kL(原油換算)/m² 2010年度比)

これまでの「駅・オフィス等における省エネ」の目標は、駅や支社ビル等において消費されるエネルギーを総量で把握し削減することを目標としていましたが、今回設定した目標は、「エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)」における「工場等」の消費エネルギーを対象としたもので、本社・支社ビル等における消費エネルギーの削減を推進していくこととしました。

●[2013年度目標]各廃棄物のリサイクル率

各廃棄物のリサイクル率については、90%を超えるリサイクル率を既に達成していますが、数値目標を下げることなく、引き続き循環型社会の実現に向けて3Rの取り組みを推進していくこととしました。

●[2013年度目標]グリーン購入実施率100%(グループ目標)

これまで物品等に関する数値目標については、事務用紙に特化し、1996年に「事務用紙の再生紙利用率」を設定以来進めてきましたが、現在はさまざまな物品等において環境物品等を選択する「グリーン購入」が社会の潮流となっていることから、当社グループ各社において必要となる物品等については環境物品等を選択するよう目標として設定しました。具体的には、各グループ会社が、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)」第6条の基本方針に定められた品目等を購入した実績の有無を指標としています。なお、並行して各グループ会社が、品目や取り扱い方等を定めたガイドラインを制定することとしています。

● [2015年度目標] 東北・上越新幹線の騒音対策75dB以下(騒音対策対象地域について) 100%

新幹線の騒音対策については、国の指導により指定された地域の75dB対策については既に完了しています。現在、2015年度完了を目標に、それ以外の地域についても段階的に改良工事を進めています。

● 毎年具体的な環境活動(グループ目標)

同目標については、地球環境問題に対する社会的認知度の高まりを受け、当社グループ各社においてさまざまな取り組みが展開されていることから、2013年度目標としては設定しないこととしました。

新環境目標に対する進捗状況

環境保全活動の分類	項目	2020年度達成目標	2011年度実績
地球温暖化防止への取り組み	鉄道事業のエネルギー使用量 ^{※1}	8%削減(MJ 2010年度比) (527億MJ⇒485億MJ)	1.9%削減 (517億MJ)
	自営電力のCO ₂ 排出係数 ^{※2}	30%改善(kg-CO ₂ /kWh 1990年度比) (0.457kg-CO ₂ /kWh⇒0.320kg-CO ₂ /kWh)	26%改善 (0.337kg-CO ₂ /kWh) ^{※3}

環境保全活動の分類	項目	2013年度達成目標	2011年度実績
地球温暖化防止への取り組み	単位輸送量あたり列車運転消費電力	6.8%削減 (kWh/車キロ 2006年度比) (1.85kWh/車キロ⇒1.72kWh/車キロ)	4.7%削減 (1.76kWh/車キロ)
	支社等における 単位床面積あたりエネルギー使用量	3%削減 (kL(原油換算)/m ² 2010年度比) (0.0467kL(原油換算)/m ² ⇒0.0453kL(原油換算)/m ²)	12%削減 (0.0409kL(原油換算)/m ²)
資源循環への取り組み	駅・列車ゴミのリサイクル率	90%	93%
	総合車両センター等で発生する 廃棄物のリサイクル率	95%	95%
	設備工事で発生する 廃棄物のリサイクル率	95%	95%
	グリーン購入実施率	100%	94%
沿線での環境活動	東北・上越新幹線の騒音対策75dB以下 ^{※4} (騒音対策対象地域について)	[2015年度達成目標] 100%	実施中
環境マネジメント	全グループ会社が具体的な 数値目標を設定	継続して目標設定	設定済

表内 はグループの目標。

※1 「鉄道事業のエネルギー使用量」は、2012年度からの目標であり、2011年度実績は参考値です。

※2 「自営電力のCO₂排出係数」は、2012年度からの目標であり、2011年度実績は参考値です。

※3 「エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)」に基づき報告を行った数値となっています。

※4 国の指導により指定された地域の75dB対策については既に完了しています。現在、2015年度完了を目標に、それ以外の地域についても段階的に改良工事を進めています。